



長期留学体験談（ドイツ語圏）



2018年度 ボン大学（ドイツ）

S.M.(日本語日本文学科 2018(H30)年度留学)

留学するという事は、大学に入学してから頭のどこかに必ずあった。でも、それは私にとって大きな変化でずっと踏み出せずにいた。二年生の夏私は友達と短期留学に参加し、初めて海外に住むという経験をした。毎日が新鮮でとても刺激的だった。それと同時に、留学をととても身近に感じた。もともと寮生活をしていたのもあり、日本に住むことと海外に住むことの違いは私にとって大きなものではなかったのだ。帰国してから留学について真剣に考えた。どこに行くか、何年行くのか、いつ行くのか。先生にも親にも友達にもたくさん相談した。でも決めたのは私だ。本来なら三年に行くつもりだったが、履修の都合上断念した。入学当初私は国際交流学科に興味があった。しかし日本語日本文学科の教授法の授業をとり、日本語を外国人に教えるという新たな切り口から日本語を見ることに面白みを感じた。ボン大学は日本語学科もあるのでそんな私に適していた。

2018年度 ボン大学（ドイツ）

M.K.(史学科 2018(H30)年度留学)

ドイツ語は第二外国語で習った程度の実力で行了しましたが、授業では私はとても苦労しました。私の場合、周りはドイツ語学科など自分よりもできる人ばかりで、毎日刺激ばかりの日々でした。当たり前ですが、授業も教科書もテストの問題文も全てドイツ語で、日本語でドイツ語を学ぶのとは全く違いました。例えば、先生から聞かれたことが分からなかった時に質問したくても言葉にすることが難しかったです。今まで、何となくこなせてきたことも、言葉が分からないと本当に何もできず、人生の中で一番歯がゆく悔しい思いをしました。でも、これは私にとってとてもいい経験だったと心の底から思います。

2019年度 ボン大学（ドイツ）

M.Y.(史学科 2019(R元)年度留学)

私はヨーロッパに行ったことも留学経験もありませんでしたので、はじめはとても不安でした。言葉が通じずに誰かに助けてもらわざるを得ない瞬間が何度もありましたが、ボン大学では手続き等に関して手厚いフォローがあり、いろいろな人に助けをいただきながら留学生活を送ることができました。またボン大学では、日本語学科の学生はとても意欲的に日本語を学んでいて、ほとんどの人がお互いの言語を教え合うタンデムを行っており、私も活用していました。また日本語学科でなくても日本語を意欲的に学びながらかつ母語でないドイツ語もとても流ちょうに話す学生もいて私の目標となりました。日本とは全く違う環境で自分と向き合うことができた留学となりました。